

健康のひろば

—29—

地元の医師がアドバイス

—前立腺がんの患者が増えていると聞くのですが、初期症状がなくなかなか気が付かないとも聞きます。血液検査でも分かるのですか。

(名寄・会社員、五十七歳)

—☆—

前立腺癌(がん)は、前立腺という膀胱の下にあつて尿道を取り囲み射精のために必要な液体の一部を産生している臓器に発生する癌で、

男性だけに発症します。一般に五十歳代以降に発症することが多く、特に多いのは六十歳代以降で四十歳代以前の若年発症は稀です。また、八十歳以上では半数以上に治療するまでもない潜在性の前立腺癌があるといわれています。一般に他の臓器の癌と比べて進行はゆっくりで早期に見えればうまく治療しやすい癌といえます。

高齢化社会の到

来、食生活の欧米化、前立腺癌検診の普及とともに、近年最も

増えている癌のひとつです。わが国で前立腺癌の発症数は一九七五年には二千人程度でしたが、二〇〇〇年には約二万三千人、二〇二〇年には推定七万八千人以上となり、男性の癌のうち肺癌に次いで二番目に多くなると予測されています。また死亡数も増加しており、二〇二〇年には二〇〇〇年と比

べて死亡数は一・四倍になると推測されています。

前立腺癌は、初期では全くの無症状で、癌が進行するにつれて前立腺が大きくなり尿の流出を妨げ、しばしば前立腺肥大症のように尿が出にくくなったり、頻尿になったりします。他には排尿時に痛みを伴ったり、尿や精液に血液や膿が混じったり射精時に痛みを伴うことがあります。前立腺炎に似た症状を呈することも

あります。前立腺癌がリンパ節や骨などの臓器に広がる骨や関節、特に背中や腰が痛くなったり、陰囊から下肢にかけてむくんだりします。

前立腺癌の可能性については、PSAという腫瘍マーカーを採血することで簡単に調べることができます。異常に高い値であれば確定診断のために前立腺に針を刺して組織を調べて癌細胞がないかどうか確認します。

(名寄市立総合病院 泌尿器科・山下孝典)



前立腺癌を心配される方は、癌検診・人間ドック・かかりつけの医療機関で一度PSAを採血してもらい、異常があれば泌尿器科に相談されることをおすすめします。

前立腺がんは採血でも